

大分初空襲

吉田豊治

昭和二十年三月十九日の「大分合同新聞」に、「敵艦上機九州南部東部に波状来襲、所在の我が部隊これを邀撃」の見出しで、「大本営発表（昭和二十年三月十八日十三時三十分）敵機動部隊九州東南海面に現出、其の艦上機は本三月十八日六時過ぎより主として九州南部及東部地区に波状的に来襲しつつあり、所在の我部隊は之を邀撃、相当の戦果を収めつつあり」と報じている。この大本営発表は同日の「朝日新聞」にも「夕刻までに延千四百機が九州各地、四国などに来襲した」ことともにのせている。「大分合同新聞」には、さらに次のように記している。

敵機動部隊は又復九州東南海面に現れ、その艦上機は十八日午前六時過ぎより主力を以て九州南部および東部地区のわが飛行場を狙ってその常套とする波状攻撃を行い、一部をもって四国、和歌山県下に来襲、午前中の敵延機数は約八百機である。云々

なお記事の中に大分県内の状況は全くふれられておらず、翌二十日の紙面には「B29百数十機名古屋夜襲」が報ぜられているが、艦上機の来襲についての記事は見あたらない。

「大分の空襲」（大分の空襲を記録する会、昭和五十年）には、十八、十九日の状況や関係者の証言が記録されているが、筆者自身も勤労働員先の第十二海軍航空廠で、グラマンの機銃掃射の洗礼を受けている。十八日就業間もなく空襲警報、総員待避が発令された。下郡の横穴壕（大分市の旧火葬場付近）に待避中、裏川の手前（芸術会館の西方）で急降下する敵艦上機

を見て、待避用の飛行機誘導路の側溝に飛び込んで避難した。激しい機銃の音と、上昇するすさまじい爆音が今でも生々しく思い出される。正午近く解除になって工場（現在の岩田町一带）に戻った時には、艦上機の小型爆弾で大きな被害を受けた状況をみて、空襲のすさまじさを実感した。

鹿児島県鹿屋に基地を置く第五航空艦隊の「作戦記録」（防衛研究所図書館所蔵）の三月十七日の項には、連合艦隊よりの通信情報として、十四日頃敵機動部隊がウルシーを出撃しており、十八日頃に九州方面に來攻する算が大であり、敵重警戒を要すると記してある。さらに十八日の項には情況判断として、「敵機動部隊ハ空母一五隻一六隻ヲ基幹トシ、四群トナリ來航セリ、攻撃目標ヨリ判断スルニ敵ハ九州、四国方面ニ対スル航空撃滅戦ヲ企シアルモノト認ム」とある。沖繩戦を目前として九州、四国方面の航空基地を徹底的にたたこうとする米軍の動きが、はっきりととらえられている。

空襲必至の状況の中で、豊後水道の警戒に当り、併せて佐伯地区の防衛を担当する防備隊の軍極秘の「自昭和二十年三月十八日至昭和二十年三月二十日戦闘詳報」（防衛研究所図書館所蔵）にある大分初空襲の記録の一部を紹介したい。

形勢

○三〇七 西部軍全地区警戒警報第一種発令 総員警戒配備ニ就ク

○五三〇 付属各船艇指定避泊地錨地ニ分散退避

○六二二 特設見張所（電探装備）敵ラシキ反射波測定

○六〇〇 天候概ネ晴 視界五 風向南西三〜五米

佐伯防備隊は本拠地の佐伯市のほかに、鶴見崎、高茂崎、大島、由良崎、芹崎、鵜来島、日振島、保戸島、沖ノ島、深島に衛所があり対空見張と聴音に当たっていたが、特に保戸島と深島には電探を装備した特設見張所が置かれた。

防備隊には十八日〇五〇〇（五時）に、午前〇時敵機動部隊三群都井崎南東二百裡北上中の電信が入り、佐伯空に対しても大村基地へ避退するよう指示が入った。〇五四五には敵機動部隊が四国南方より近づきつつあり、今朝空襲に対し嚴重なる警

戒を要すとの電信が受信された。防備隊では兵力全部をあげて対空戦闘の準備をすすめ敵機来襲に備えた。こうして戦闘が開
始されるのであるが、その経過が『戦闘詳報』に次のように記録されている。

三月十八日

○三〇七 警戒警報第一種

○五三〇 第二警戒配備各船艇分散退避 ○六一〇完了

○五四〇 重要物件兵器糧食衣囊等分散格納

○七一五 総員防空壕ニ就ク

○八三〇 対空戦闘

○八四〇 天候概ネ晴視界稍不良風速二ノ三米

敵戦闘機(グラマン・スコルセア) 大入島方向ヨリ高度三千乃至四千ヲ以テ佐伯市ニ向フ(伯空機銃打方始
メ)

○八四五 十六機当隊病舎各船艇ニ対シ機銃掃射打方始メ 女島高射砲並ニ野岡山機銃陣地各船艇攻撃開始(敵戦闘機三
十佐伯空襲撃地上機一機 東海一機炎上)

○八四七 打方待テ

○八五二 打方止メ

○八五二 派遣防火隊軍需部へ派遣(軍需部七番倉庫火災)

○九二〇 彦嶽方向ヨリ敵四機大入島付近分散船艇ニ対シ機銃掃射 之ニ応戦(敵七機佐伯空機銃掃射 伯空機銃打方始
メ) 十二機尺間山上空ヨリ白杵山方向ニ向フ

一〇〇〇頃 雲発生約五割ハ雲ヲ以テ蔽ル 風速四ノ五米

一四〇〇頃 雲消散視界恢復

一七一〇 空襲警報解除 第一警戒配備

三月十九日

○四〇五 第二警戒配備

○六三〇 敵四機沖ノ島南東進向方向北西

○七〇五 グラマン戦闘機四機片網代島上空ヨリ大平山上空ニ脱去

○八三〇 日振衛所敵二機ノ機銃掃射ヲ受ク

○八四五 鷓来衛所敵二機ノ機銃掃射ヲ受ク

○九二〇 第二警戒配備

一五五八 空襲警報 対空戦闘

一六一二 グラマン戦闘機四機片網代島方向ヨリ来襲(伯空練習機一機炎上)

一六一八 敵機灘山方向ニ脱出(伯空機銃打方始メ)

一七二五 空襲警報解除

三月二十日

○五〇〇 第二警戒配備

○七三五 片網代島南方爆音聴取 第一警戒配備

○七四六 爆音聴失

○七五四 第二警戒配備

一一一二 大分県地区警戒警報解除

この記録は防備隊の担当区域に限られ、大分市に來襲した状況は不明である。なお戦果と被害などについて最後に次のように記されている。

戦果及被害

(一) 戦果イ 撃墜一機 不確実二機 撃破一機

(二) 被害イ 日振衛所

(1) 一、三番聴音機及蓄電池一個貫通

(2) 聴音所、天井裏ニ火災發生セルモ直チニ鎮火異状ナシ

ロ 鷓來衛所

タンガー充電器一個破損火鉢一個窓硝子五十六枚破損硝子戸十二枚破壊

ハ 沖ノ島衛所

高圧饋線一本切断一本破損

ニ 大衆丸

送信機受信機(電信) 羅針儀探信儀探照灯其ノ他船体ニ数百発ノ彈痕アリ

ホ 佐島火薬庫格納中ノ九六式機雷七三二個ハ敵機ノ墜落ニ依リ轟発ス

ヘ 我戦死傷者 別紙(省略)

(三) 捕虜一名 別紙(省略)

我兵力ノ現状

大衆丸ヲ除キ全戦力發揮可能(大衆丸修理工事約一月ノ見込)

功績

本隊野岡山 釣島 擊墜一機 不確実一機 擊破一機
大衆丸及水丸 擊墜不確実一機

参考

(一) 戰訓

(1) 平素ノ対空戰闘教練ハ特ニ実践的ナルヲ要ス

今次当隊ニ來襲セシ敵機ハ何レモ「グラマン」戰闘機ニシテ二十數機ガ三回ニ別レ付近避泊中ノ付属船艇ノ銃擊若干ノ死傷者ヲ生ゼシモ我亦敵機五機ヲ擊破スルノ戰果ヲ挙ゲ得タリ、本戰闘ハ当隊トシテハ最初ノ航空戰ナリシモ平素訓練能ク効ヲ奏シ対空戰闘モ順調ニ行ハレタルモノト認ム

(2) 船艇ノ避泊錨地トシテハ成ル可ク周圍ガ高キ山ニシテ湾内狭ク且岸近く投錨可能ノ位置ヲ適當トス、防禦砲火貧弱ナル船艇トシテハ濫リニ单独遠方ニ避退スルヨリモ有力ナル防禦砲火ノ威力圈内抱擁スルヲ可トス尚敵機來襲中航行スルハ襲撃ヲ受ケ易シ

(3) 当隊各防備衛所並ニ電探所ハ今次ノ戰闘ニ於テ終始克ク探知見張ヲ行ヒ其ノ迅速ナル報告通報ハ全軍ノ作戰ニ寄与スル所大ナルモノアリシト認ム 而モ戰爭中豊後水道防備上不可欠ノモノニシテ之ガ敵機ノ為破壊サレンカ対潜対空戰闘上ニ及ボス影響極メテ大ナルベシ然ルニ殆ンド全衛所共全ク防禦兵器ナキ現状ナリ、速ニ各衛所二十三耗機銃ニ基程度裝備ノ要アルヲ痛感セリ。